

## 第1回六郷小学校区地元代表者協議会 会議録

1 日 時 令和5年2月3日（金）18時30分～19時50分

2 場 所 六郷コミュニティセンター ホール

3 出席者 (1) 委員 14名

(2) 米沢市教育委員会教育長 土屋 宏

事務局 教育指導部長 山口 玲子

教育総務課長 高橋 利明

学校教育課長 植木 修

学校教育課 適正規模適正配置推進主幹 森谷 純

学校教育課 適正規模適正配置推進室長 樋口 進一

学校教育課 主事 田村 美佐保

4 内 容

(1) 開会

(2) あいさつ (教育長)

(3) 自己紹介 (委員および事務局)

(4) 地元代表者協議会の概要について

(5) 会長及び副会長の選出 (会長 佐藤耕一委員、副会長 新藤広一委員)

(6) 統合に係る意見書の取りまとめについて

(7) 協議

①米沢市立学校適正規模・適正配置推進等基本計画について

②地元代表者協議会の進め方について

③統合に向けての意見について

④その他

(8) 第2回協議会の開催日程について

(9) 閉会

(6) 統合に係る意見書の取りまとめについて

(委員) 意見のとりまとめについて確認させてほしい。本日の資料で他の地区の参考資料があるが、他の小学校では、松川小に關根小が、南原小に關小がという統合だったが、この度の統合というのは、六郷・広幡・塩井が対等な関係で統合に向けて動いていくと思うのだが、各地区で意見書をとりまとめるということではどうか。その際、3地区でとりまとめた意見書のそれぞれの効力はどうなるのか。ある程度すりあわせて、同じ方向性にもっていかないと、意見書としてそれぞれ別々の方向性のものを教育委員会がもらっても混乱するのではないかと思うのだが、そのあたりどのように考えているのか教えていただきたい。

(事務局) 各小学校区において、地元代表者協議会を開催させていただいていますが、閉じていく学校単位で、心配なことや不安なことなどを意見として出させていただくイメージで考えている。後ほど説明させていただく統合準備委員会を設置

する予定。統合準備委員会は、3地区の代表の皆さんや3校のPTAの代表の方  
に集まっていただき1つのテーブルを囲み、新しい学校を作るための検討作業  
を進めていただく予定。そのスタートの際は、3つの地区で出していただいた  
意見書をみなさんで共有していただき、その内容をふまえて、どういう学校にし  
ていくかというところを1つ1つ検討していくことになる予定。それぞれの地区  
の思いを共有していただいた後に、1つの学校を作るためにすりあわせをしてい  
ただくというイメージで考えていただければと思う。

(委員) そうだとすると、この代表者協議会でのとりまとめは、六郷地区としての意  
見を出すということによいのか。

(事務局) そのような形でお願いできればと思う。

#### (7) 協議について

(会長) 初めに「米沢市立学校適正規模・適正配置推進等基本計画について」説明を  
お願いします。

《 事務局から説明 》

(会長) 以上の説明について、質問はいかがか。

《 質問なし 》

(会長) 次に、「地元代表者協議会の進め方について」説明をお願いします。

《 事務局から説明 》

(会長) 以上の説明について、質問はいかがか。

(委員) 今まで統合してきた学校の地元代表者協議会の会議録などをホームページで  
見られるようにしているかと思うが、参考にしたいと思ってホームページを見  
たが載っていなかったと思う。どういうことか。

(事務局) 現在のところ、ホームページに過去の地元代表者協議会の会議録は掲載して  
いない状況です。もし、次回以降に向けて必要であれば、委員のみなさんに提  
供させていただきたい。かなりのボリュームがあるので、そこは事務局で調整  
させていただければと考えています。

(委員) この会の内容についても掲載するのか。

(事務局) これから進めていくにあたって、他の地区でも地元代表者協議会を立ち上げ  
させていただいている。毎回の会議録を確認し、承認いただいたあとにホーム  
ページに掲載したいと考えています。そういう形をとることで、地元代表者協  
議会に参加していない地区の方にも見ていただければと考えています。

(会長) 次に、「統合に向けての意見について」説明をお願いします。

《 事務局から説明 》

(会長) 以上の説明について、質問や意見はいかがか。

《 質問なし 》

(委員) 関小、関根小が南原小、松川小にそれぞれ統合なったわけだが、令和3年度

の統合なので、すでに2年間経っていると思う。小さい学校から大きい学校に行った子どもたちの様子や通学の様子、朝、ちょっと早く家を出なければならないことはないかなど、具体的な様子がわかれば、わかる範囲で教えていただきたい。

(事務局) 関小、関根小がそれぞれ南原小、松川小に統合して2年間過ごしているわけですが、統合にあたっては、小さい学校から大きい学校へということで、地域の方や保護者の方の不安がありました。ただ、事前に交流事業ができ、子どもたち同士が事前に仲良くなるという様子が見られました。また、教職員の意識としても、小さい学校から大きい学校にという認識ではなく、お互いに2校が合わさって新しい学校をつくっていくという意識もあって、教職員、子どもたちが良い学校をつくっていこうという意識のもと、学校生活を送っているところがあると思います。統合した南原小、松川小のどちらも、最初のうちは上手になじめているかとか、特に小さい学校から来たという子どもたちは環境がまるっきり変わるので、子ども達を注視しながら毎日を過ごしていました。

定期的に子どもたちにアンケートをしたり、保護者のご意見やお考え、子どもたちの様子を教えていただいたりすると、すぐなじんでいるという子や不安があった子どもたちもだんだん学校が楽しくなっている様子があったと聞いている。交流事業の中でも、年に何回か、コロナの時期は少し回数が減ったが、回を重ねていくごとにどちらの小学校の子どもかわからないぐらい仲良くなっていた。

通学については、ジャンボタクシーや乗合タクシーを使うことになり、乗車練習を一日入学の時期に実施しながら、実際こうやって乗っていくんだということを子どもたちにも実感してもらう機会をつくり、安心して統合をむかえられるようにしました。実際の統合後の通学の様子を見ていると、乗車の仕方もスムーズで、地区によっては運転手さんと仲良くなったりもして、みんな元気に通っています。また、統合後の学校に、子どもたちの通学などの支援のため教育支援員を配置しています。統合後の2年間配置し、スクールバスやジャンボタクシーの利用支援や、クラスの中でも配慮が必要な子にかかわるようにして、子どもたちの不安解消を図っています。

(委員) 学校統合は、そもそも小学校の複式学級の解消、さらには単学級でなく2クラス以上にして、クラス替えできるようにしたいというところが出発点だと思うが、この度の新しくできる小学校は、おそらく3校あわせても200人にも満たない状況になって、学年に1クラスの単学級になるのでないかと思っている。別に、そのことについて教育委員会を責めているわけではなく、当初想定していた頃よりも想像以上に人口減少が進んでいることなんだと思う。むしろ、そうした中でも統合を進めていただいていることに対して私は感謝している。

ただ、このままいけば、確実に児童数が減ることはまちがいないわけで、5年後、10年後にまた違う学校と統合しなければならないとなると、地区も保護者もまた大変になるわけで、人数という点で、児童の確保を教育委員会はどのように考えているか教えてほしい。それと、これからの会議でかまわないので3地区でこれから小学校に通う予定の子どもたちがどれくらいいるのかというのを数字で示していただければと思う。

(事務局) 基本計画の中でも、小学校については子どもたちの人間関係が豊かにかかわり合えるように2クラス程度をめざして進めていくという基本の考えがあり、実際、計画を策定してから、数年間でも私たちが考えている以上に少子化が進んでいる現状は、委員のお話のとおりです。そんな中で、(仮称)統合小学校スタート時に単学級でのスタートになると思う。計画では、米沢市内の小学校は最終的に8校ぐらいに統合していこうと考えており、それぞれいくつかの地域が集まっての学校づくりになるが、それぞれ特色があつていいと考えています。非常に大きな学校もあるし、そうでない規模の学校もできるかと思うが、ぜひ、その地域の学校の特色をつくっていきたいと考えたときに、(仮称)統合小学校については、これまでも3校それぞれ地域と強いつながりをもって、地域の方々にたくさん支えていただきながら学校づくりが進んできた歴史をふまえ、これから統合していく中でも3地区の良さをいかしながら、そして地域の特色をいかしながら学校づくりを進めていきたい。そしてその中で、現在複式学級がある学校については、1クラスであっても同じクラスに友達がたくさんいることになるし、学校全体の人数も増えるということにもなり、さまざまな関わり合いがもてるようになると考えておりこのまま進めていきたい。

また、この先、5年、10年さらにその先と想像でしかないところですが、米沢市全体でもいかに人口を増やしていくかという取組をするという思いも持っているところです。子どもたちについては、この特色ある学校づくりをしてぜひ、その学校に通いたいという方々が増えたときに、まだはっきりこのようにとは申し上げられませんが、特色ある学校をつくっていく中で、例えば学区外をどのように認めていくかということも、これから具体的な検討に入りたいと思っています。ぜひ、今、お願い申し上げたいのは、新しく統合していく学校においても、六郷地区と他の2つの地区も含めて、新しい学校文化をつくるということを、地区のみなさまにもお手伝いいただきたいと思っているので、よろしくお願ひします。

(教育長) 以前、私が指導主事として六中の歴史を調べる機会がありました。その中で広井郷中学校が開校するときの歴史を調べてみると、その時の3つの村の村長さんたちがかなり苦心したようだった。そういう思いを込めて広井郷中学校がつくられた。それが六中につながっているわけで、そういった意味からもこの

3地区というのは深いかかわりのある地区だと思う。なので、ただ単に子どもの数だけでなく、地域性というものを考えたときに、六郷、広幡、塩井地区は昔からかかわりの深い地域なので、そのかかわりを大事にして、その地域の子どもたちを育てていっていただきたいという思いもあります。

また、特色のある地域でもあるので、通う子どもたちを増やす手立てを、地域の皆さんと一緒に考えたり、地域ならではの特色ある教育をつくっていくことで子どもたちを集める仕組みができたりしたらいいなと思っている。地域の皆さんと一緒にあって、子どもたちが行きたくなる学校、保護者の方々が通わせたい学校、そして自然豊かで人間味ある人たちがいっぱいいいなあと行って子どもと一緒に移住しに来てもらえるような地域をつくっていけるといいなあと考えていますので、よろしくお願いします。

(委員) 今、教育長、教育指導部長から話があったが、統合について前から胸につかえて、しっくり落ちないところがあった。やっぱり統合させていただくことでよくなるというのはわかるが、日本の未来やもちろん私たちの地域の未来をこれからどうしようかというのを考えたとき、子どもたちがいなくなるということは考えないで、それをどうしようかという頭の上においておかないとダメなんじゃないかと思う。岸田総理も異次元という言葉を使って少子化、子育て政策をしようとしているわけだが、どうも異次元とは何かが見えてこない。やっぱり自分たちでどうしようかという思いを、それから教育長さんが言ったように、特色ある教育をする地域であるということも頭におきながら、統合を進めていかなければならないと思う。そういう意味では、これから先、子どもが少なくなるからという考え方はやめようじゃないかという思いをもつのだが、皆さんいかがか。今更何を言うんだと言われるかもしれないが、前向きな方向性を頭におきながら、進めていくのがいいんじゃないかと思う。いかがか。

(会長) これから、みなさんでそのことを考えていきたいと思うので、よろしくお願いします。

(会長) 次に、「その他」について、何かないか。

(委員) 1月20日に、学童の3地区の代表者が集まって、市長、教育長も同席していただき、3地区で統合小学校ができた場合の学童の施設を、統合小学校の施設の中につくっていただけないかという要望書を提出させていただいた。

学童については、これから子育てしていく中で必要不可欠な施設になるもの。もともと、3地区の学童とも公共の場所をお借りしてやっているという、似かよった学童で、そういう意味で統合小学校の施設の中に整備してほしいということ要望したので、みなさんにお話しさせていただいた。

(会長) 他にないか。無ければ以上で協議終了とする。ありがとうございました。